

〔報告〕

## 基礎理学療法分野の全国学会を本学で開催しました

伊 東 佑 太

2014年11月15日土曜日と16日の日曜日の2日間、名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎翼館を会場に、第1回 JPTA日本基礎理学療法学会 学術集会・JPTF日本基礎理学療法学会 第4回学術大会 合同学会 (<http://jpta-jptf-congress.jp/>) を開催した。本学会は、全国の理学療法士のうち、基礎医学研究に関わる研究者が集まり研鑽してきたJPTF日本基礎理学療法学会という学術団体と、日本理学療法士協会の改組に伴い、その分科学会として誕生したJPTA日本基礎理学療法学会という学術団体の記念すべき1回目の合同学会である。筆者は企画局長として学会準備から当日運営まで関わった。また、筆者のゼミに所属する学生7名も運営スタッフとして加わり、当日の円滑な運営を担った。両日には日本全国から440名（一般351名、学生78名）が参加し、クラインホールに立ち見が出るほど盛会であった。学外からの参加者からは、「きれいな大学ですね」、「こんなところで学べるのがうらやましい」とのお言葉を多くいただいた。

学会はテーマを「基礎理学療法学 ―理学療法と科学のインテグレーション―」とした。真に科学的な理学療法学の発展に寄与するため、理学療法効果の根拠となる基礎医学分野の研究

内容をリハビリテーション臨床の従事者たちにわかりやすく伝えることを目的とした。

内容として、第1会場としたクラインホールでは（図1）、基調講演、特別講演、男女共同参画企画、4領域のミニシンポジウムを企画した。特別講演では、生物学的観点から臨床的観点までの幅広い観点から、筋萎縮やその予防を研究されておられる立命館大学の藤田聡先生をお招きし、ご講演いただいた。男女共同参画企画では、「理学療法士女性研究者の現状と今後の発展―多様なロールモデル―」というテーマで、名古屋大学の李佐知子先生、京都大学iPS細胞研究所の竹中菜々先生、大阪大学の村松里衣子先生をシンポジストとして迎え、女性研究者の視点から研究者の未来について討議した。このセッションの司会は本学リハビリテーション学部の肥田朋子教授が務めた。ミニシンポジウムは、「高齢者の筋機能を科学する」、「運動イメージの効果とその理学療法への応用」、「足部の解剖学とバイオメカニクスのインテグレーション―理学療法の再考」、「理学療法評価学―臨床研究と基礎研究のインテグレーション―疾患特異的評価指標の改定の背景にある基礎研究～」の4領域で各々の研究最前線を議論した。翼館3階302、303、304教室は第2、3、4会場



図1 クラインホール；第1会場の様子

基礎理学療法分野の全国学会を本学で開催しました



図2 302・303・304；第2～4会場の様子

として（図2），一般口述演題の発表を行った。口述発表は12セッション、計49演題で、これらの会場でも立ち見が出るほどの参加者が詰めかけた。翼館1階のラウンジ（図3）は、一般ポスター演題の発表会場となった。ポスター発表は計39演題で、ここでもまた多くの参加者の熱気に包まれた。著者も1演題発表した。また、1時間の発表時間では収まらないディスカッションは、同会場で開催したレセプションパーティーでも引き続き行った（図4）。レセプションパーティーは名古屋ビルサービス様にご協力いただき、参加者から大好評を得た。そ

の他、1階ラウンジでは、アーカイブティップス株式会社様、インターリハ株式会社様、東芝メディカルシステムズ株式会社様、バイオリサーチセンター株式会社様の機器展示、丸善株式会社様のご協力で書籍展示も行った。

本学会がこのような成功裡に終えることができたのも、翼館の各会場の手配や貸出備品の準備にご協力いただいた財務課の白金様、教務課の岩崎様はじめ、多くの名古屋学院大学の方々のご支援のおかげである。ここに感謝申し上げます。





図3 1階ラウンジ；ポスター発表会場の様子

基礎理学療法分野の全国学会を本学で開催しました



図4 1階ラウンジ；レセプションパーティーの様子

